

D-2 児童の心身発達と乳児期の栄養法との関係とその環境条件について(第
8報)(5) 出生月と乳児期の栄養法と知能との関係

宮崎大教育 〇秋山露子 石川久美子

目的 本研究は児童の心身発達と乳児期の栄養法との関係を究明するためにその環
境条件として出生月が乳児期の栄養法と知能との関係について各年齢層別に報告され
た資料を基として調査人員3636名について総合的に再検討するものである。

方法 資料は生後6カ月以内の栄養法を母乳栄養群、混合栄養群、人工栄養群の三
つに分類した。知能偏差値は各年齢層別に知能偏差値段階を7段階に分類し、その段
階に属する負数を百分比で表わした。出生月を春夏秋冬の四季に分類して、出生月と
乳児期の栄養法と知能偏差値との関係を総合的に比較検討した。

母集団の均一性はF検定を用いて検し、有意差のないものについては平均の差とT
検定を用い、有意差の認められたものについては、コクランコック法により検討し
た。

結果 各年齢層を総合的に比較検討した結果、乳児期の栄養法では、母乳栄養群、
混合栄養群は四季を通じて知能発達偏差値は著しい差は認められないうが、概して冬期、
春期出生者の知能偏差値が高く、それに反して人工栄養群では、どの年齢層も春期、
夏期、出生者が知能偏差値が高く、秋期、冬期出生者が低い傾向が認められた。

以上の結果から総合して乳児期の栄養法と知能発達は乳児の生育条件として地域的
な四季の温度や湿度の自然環境の影響と全く無関係ではないことが推察された。